

# 小山市事務事業評価シート

令和4年度版

No. 18

1. 基本情報										
<1> 事業・業務名		小山市コミュニティバス整備事業				<2> 事業・業務の別		事業		
<3> 選定基準		③ その他				<4> 継続業務・新規業務の別		継続業務		
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	4 暮らしやすく住み続けたい 地域の活力を生かしたまちづくり				<6> 担当部(局)		都市整備部		
	中項目	4-2 みんなの暮らしを支える生活基盤整備				<7> 担当所属		都市計画課		
	小項目	4-2-3 交通体系				<8> 担当係等		新交通・バス推進係		
	施策	コミュニティバスの運行								
<9> 根拠法令・計画等		地域公共交通の活性化及び再生に関する法律				<10> 関連・類似事業				
<11> 会計		一般		会計		<12> 予算科目		8 款 4 項 1 目		
<13> 実施期間		年度 ~ 年度		<14> 全体事業費		千円				
<15> 実施手法		全部委託				「その他」の場合 ( )				
2. Do - 実施 -										
<16> 事業・業務の概要		小山市コミュニティバス（路線バス14路線及びデマンドバス5エリア）の運行整備を行う。								
目的	<17> 事業・業務の目的	市街地は往復運行の路線バスを運行し便数を確保し、郊外は予約制区域内運行のデマンドバスを運行し、これらを乗継拠点で結ぶことで交通空白地域の解消とサービスの利便性の向上を図る。マイカー無しでも便利な移動サービスと豊かな生活を小山市民、小山への来訪者に提供する。								
	<18> 事業・業務の対象	①自家用車を持たない若者②高齢者などの交通弱者③公共施設、医療機関、買い物等商業施設への移動など生活の足として利用する市民④通勤通学者⑤小山市への来訪者								
<19> 令和3年度の活動内容		路線バス14路線・デマンドバス5エリアの運行継続、令和3年度の改正①小山駅東口循環線、小山駅東口・新市民病院循環線のおーバスnoroca（定期券・回数券）の適用範囲拡大、運行経路の見直し②おーバスnorocaとおーラジカードの商業連携③高岳線増便④LINEを活用したスマホde noroca定期券回数券の供用開始⑤路線図・時刻表の作製配布⑥通学を対象としたモビリティ・マネジメントの実施								
手段	<20> 活動指標（活動した量や実績）	指標名	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度	
				計画	実績	計画	実績	計画	計画	
		ダイヤ改正数	路線	2	5	3	3	2	4	
		指標とした理由	計画的に利用者のニーズに合わせたダイヤ改正や運行ルートの見直し、増便を実施することで利用者の利便性向上に寄与できるため。							
		バス利用促進広報活動実施回数	回	2	2	2	2	2	2	
		指標とした理由	新入学の時期に学生を対象としたモビリティ・マネジメントを実施することにより通学手段におーバスを選択していただく。改正に合わせた路線図時刻表やチラシを作成し周知することで認知度の向上に寄与できるため。							
<21> 事業・業務の成果		コミュニティバスの利用者数は前年比約10万人増と増加している。乗り残し対策として実施した路線増便により時間当たり2本という運行頻度の高い路線が増加。コロナ禍で全国的にバスの利用者が減少している中で利用者が増加しているのは稀である。								
成果	<22> 成果指標（活動した結果得られた成果の量や実績）	指標名	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度	
				計画	実績	計画	実績	計画	計画	
		利用者数	万人	75	74	79	84	87	91	
		活動指標との関係や成果指標とした理由	利用者の意見を取り入れ、より便利なダイヤとすること、おーバスを多くの人にとってもらい、移動手段に選んでもらうことで利用者増に繋がるため。							
		1日当たりの運行距離	km	2,350	2,383	2,500	2,456	2,650	2,700	
		活動指標との関係や成果指標とした理由	運行距離が延びることで、より充実した利便性の高い路線網になるため。							
資源	<23> 投入指標（投入するお金の量）	コスト実績		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度
					計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	計画(予算)
				千円	221,211	211,084	238,583	236,485	226,792	279,047
		事業費等		千円	198,000	187,873	215,372	213,274	203,581	255,836
		財源内訳	国・県補助金	千円					10,600	7,100
			地方債	千円					11,700	7,800
			その他	千円						
				一般財源	千円	198,000	187,873	215,372	213,274	181,281
		上記の主な使途	路線バス運行費維持費補助金							
		人件費	千円	23,211	23,211	23,211	23,211	23,211	23,211	
		正職員	千円 × 人役	7,737 × 3.0	7,737 × 3.0	7,737 × 3.0	7,737 × 3.0	7,737 × 3.0	7,737 × 3.0	
		他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×	×	×	

3. Check - 評価 -					
実績評価	妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1. 妥当である		
		理由	マイカーを持たない若者や高齢者等交通弱者の増加により公共交通の必要性は増している。小山市総合都市交通計画及び生活交通確保維持改善計画等の公共交通に関する計画を基に、交通弱者や通勤通学者及び来訪者の利便性の向上を図っている。		
	有効性	<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1. 妥当である		
		理由	増便や、定期券・回数券（モバイル含む）の割引サービスの普及等により、バス利用が促進されて新規利用者や固定客の増に繋がっている。65歳以上の高齢者割合は年々増えており、ダイヤ改正等に合わせた路線図・時刻表等の配布による地道な周知活動は必須である。		
	効率性	<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	1. 増大している		
		理由	おーバス利用者数は令和元年度72.9万人、令和2年度73.7万人、令和3年度83.7万人と順調に増加し続けている。		
	公平性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1. 妥当である		
		理由	平成20年に民間路線バスが撤退しており、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の第4条3項では「市町村は、公共交通事業者等その他の関係者と協力し、相互に密接な連携を図りつつ主体的に地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生に取り組むよう努めなければならない。」とあるため妥当である。		
	総合評価	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1. 向上の余地はある		
		理由	定期・回数券（モバイル含む）利用者は増加しており、日常的なバス利用者が増加している路線については、車両の大型化や増便等による乗り残し対策が必要である。バス利用者が伸び悩んでいる路線については、ダイヤや運行ルートを見直しして魅力ある路線とする必要がある。デマンドバスはコロナ禍により利用が低迷しており見直しの検討が必要である。		
事業の改善	<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいのか？	1. 大きい			
	理由	おーバスを運行することで、医療・福祉・商業施設や居住等がまとまって立地し、多世代の住民が公共交通により生活利便施設に円滑に移動できる「コンパクト・プラス・ネットワーク」の持続的発展が可能なまちづくりに寄与できる。			
事業の方向性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	1. 向上の余地はある			
	理由	利用者や要望が増えている等、需要の見込みがある路線や利用者が極端に少ない路線の見直しを、優先的に実施することで高い乗車率となるため、効率の向上を図ることができる。			
事業の計画	<31> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	2. 検討を要する			
	理由	交通弱者とそうでない人や、都市部と郊外部等の公平性におけるバランスをとりながら整備を進めている。利便性が向上することで受益者負担の水準が増となる可能性があるため、将来的には収支改善に伴う料金改定の検討が必要である。			
事業の計画	<32> 総合評価	2. 改善の余地はある	理由	計画目標を達成するために利用者の意見を拝聴し、計画に反映することでコミュニティバスの利便性向上を図る。LINEを活用したモバイル定期券・回数券「スマホ de noroca」の普及促進により、マイカー無しでも便利な移動サービスと豊かな生活を、小山市民・小山への来訪者に提供する。	
	4. Action - 改善 -				
事業の計画	<33> 事業の課題・事業の改善点	・コミュニティバス事業は、毎年増便やダイヤ改正、ルートの見直しなど利便性の向上を図っており、利用者も順調に増加し続けている。それにもかかわらず、総合計画の市民意向調査は、第7次の満足度2.8から、第8次には全項目中最下位の満足度2.68に低下しており、市民ニーズに対応できていないと考えられる。・交通調査（パーソントリップ調査）の結果から子育て世代（特に女性）は送迎に時間を使っていることが明らかになっている。・交通量調査の結果から、バスの不便な地域にお住いの高齢者は外出率が低いことが明らかになっている。→これらの課題を解決するためには、より一層おーバスの増便やダイヤ改正を行い、利便性を向上させていく必要がある。			
	5 Plan - 計画 -				
事業の計画	<34> 1次評価	所属長	1. 拡大	理由	小山市民のバスを使う人の割合は0.3%と他の市町と比較して非常に低い水準となっている。また、高齢者の自家用車の割合が増加しており、自家用車以外の代替交通手段がなくなってしまっている。小山市内全域にコミュニティバス公共交通網はあるが1時間に1本以上間隔があいており決して利便性の高い公共交通機関とは言えない。コンパクト+ネットワークの実現には更なる公共交通網の充実が必要である。
	<35> 2次評価	所管部長	1. 拡大	理由	令和4年度に策定予定の地域公共交通計画、立地適正化計画や小山市総合都市交通計画等で位置づけられた拠点の機能強化と連携によるコンパクト+ネットワークのまちづくりには、公共交通体系の充実、おーバス等の新設・増便等の利便性強化が必須である。
事業の計画	<36> 実施計画・今後の方針	令和4年度は、おーバスnorocaの拡大に向けてモバイル（スマホ）等の利用推進、おーラジカード特典付与機能の利便性強化、モビリティ・マネジメント（バス利用促進広報活動）の継続実施（一般向け、学生向け）、バスとタクシーとの連携事業など各種施策を展開して、①おーバス（路線バス）を圧倒的に便利なバスへ ②タクシー、デマンドバスとの連携 ③生活サービスとの連携により、まちや地域全体の活性化を目指す。また、これらをまとめた地域公共交通計画を策定する。			
	<37> 活動・成果目標	コロナの感染拡大による緊急事態宣言等があると、外出が抑制されてバスの利用者数が減ってしまう懸念があるが、現在はコロナ禍前の状態に利用者数が増えつつあることや、バスの利用促進策を継続実施していくことで、令和4年度の利用者数は令和3年度より増加を見込み、87万人/年を目指す。			